

第 5 号議案  
(報告事項 2)

## 平成 26 年度 事業計画(案)・収支予算(案)

自 平成 26 年 4 月 1 日  
至 平成 27 年 3 月 31 日



平成 26 年 5 月 31 日 (土)

NPO 法人 川に学ぶ体験活動協議会

## 1. 総括

平成 12 年の川に学ぶ体験活動協議会の設置以来、こどもたちの川体験や川の指導者の養成活動を推進し、日本最大の川の指導者ネットワークと成長し、位置付けられてきた。しかし、RAC の理念・技術を習得した指導者が全国に万遍なくいるという状況には未だ至っていない。

また、一方で、川の体験活動の学校教育での普及や防災教育面での指導力の強化のほか、河川協力団体制度がスタートするなど新たな社会的なニーズが増してきた。

さらに、自然体験活動の指導者制度の変更とあわせて川の指導者養成システムも見直しに取り組んできている。

これらの状況を踏まえて、平成 26 年度は、各地で継続的に指導者養成を展開すると共に、RAC 指導者のいない地域での「川の指導者」養成に向けて、入門的講座等を積極的に開催する。また、指導者養成講座を受講した人に指導経験を積んでいただくための OJT 等を取り入れた研修システムの環境整備を促進する。

さらに、川の指導者が学校教育や防災教育等、川をテーマにした様々な活動場面で活躍できるよう、効果的な指導者育成、研修制度等について調査研究を行う。

これら RAC 指導者の強化に加えて、安全面からみた PFD の基準化と普及、水難事故への対応や RAC アワードなどの諸活動をとおして、川育効果の普及や水難事故の防止と併せて RAC の社会的知名度の向上に努めることとする。

## 2. 会議

- (1) 理事会 — 平成 25 年度の活動報告・会計報告、平成 26 年度の活動計画・収支予算等についての検討を行う。

[開催日時] 平成 26 年 5 月 31 日 (土) 13:30~14:30 / 東京都

- (2) 総会 — 平成 25 年度の活動報告・会計報告の承認、平成 26 年度の活動計画・収支予算等についての報告を行う。

[開催日時] 平成 26 年 5 月 31 日 (土) 15:00~17:00 / 東京都

[開催場所] ガールスカウト会館 3F 第 1 研修室

- (3) 常任理事会 — 業務執行に関する検討を随時行う。  
審査認定及び審査認定に関する各種細則の作成を行う。

- (4) 専門部会・委員会

下記の専門部会・委員会ごとに主な事業を推進する。

①企画総務部会

総務対応／全国大会対応／地域ブロック毎の普及活動促進・把握／全国一斉1万人・川の流れ体験キャンペーン／RAC資機材の販売促進／RACフォーラム企画運営／RAC保険の検討／RACアワード推進 等を行う

②人材育成部会

安全対策講習会（「RACスローバック講習」「気象マスター」「河川での着衣泳講習」「防災教育キャンプ講習」等）の検討及び付加資格化及び「水辺のリスクマネージャー養成講習会」の検討／トレーナー更新講習会企画準備／各講座開催サポート／OJT制度普及／RAC指導者養成カリキュラムの検討 等 を行う

③組織強化部会

RAC加入団体指導者に関するデータ分析・組織強化策の企画／河川管理者、教育関係団体、学校との連携／民間企業CSRとの連携・研究の推進／全国川遊び百選の拡充／防災教育プログラムの集約・開発 等を行う

④学校連携部会

学校連携のパイロット校を広げ学習構築モデルを増やす／「学校連携コーディネーター養成講座」専任講師養成と普及／学校連携対象の学校にRAC指導者の派遣や、「RAC学校リーダー養成講座」のモデル講座等を行う

⑤安全対策委員会

川での体験活動の更なる安全対策の検討／RAC提供安全資機材の基準検討／RAC登録指導者や会員団体の事故遭遇時の対応 等を行う

⑥審査認定委員会

川の体験活動指導者養成講座等RAC認定講座や支援の審査を行う。

2. 川の指導者養成等

(1) 川の指導者養成

①RACリーダー、インストラクター等指導者養成

1万人を当面の目標にして、全国各地の各河川で活躍できる指導者を養成する。

②RACトレーナー研修会等

各地で川に学ぶ体験活動を推進するための高度な専門家を養成する。（講座の支援については事前調査申請書を申請した団体で且つ開催地域の河川管理者と連携した取り組みについて優先的に行う）。

### ③付加資格関連講座・専任講師養成講座の展開

インストラクター等高度な専門家を養成する一環として、水辺のリスクマネジメント講座及び水辺のレスキュー講習、Eボート指導者講習等をRACリーダー養成講座と併せて展開する。また、それらの講師を担える専任講師を養成するための講座を展開する。

## (2) カリキュラム検討

### ① 付加資格講座カリキュラム再検討

「水辺のレスキュー講習」等既存の付加資格のカリキュラム内容についての課題を整理し、プログラム内容とマスター講師等の指導技術についてのブラッシュアップを同時に行う。(その他、各地の高度な専門家となるために、「川の防災教育」、「気象」等に関する付加資格の講習カリキュラムについて検討する。)

### ② 川の防災教育カリキュラム参考事例収集

日常生活へ応用できる川での体験活動に関連する防災教育プログラム事例をホームページ等で広く収集する仕組みを構築する。

## (3) OJTプログラムの普及

川の指導者研修OJTプログラムとしてRAC・OJT認定講座として認定をした講座を支援をする。

## 3. 全国大会等

### (1) 第14回川に学ぶ体験活動全国大会 in 五ヶ瀬川

(共催事業)

実行委員会形式による全国大会を共催する。

※ 日 時：平成26年9月20日(土)～21日(月)

※ 会 場：宮崎県延岡市 他

※ 主 催：川に学ぶ体験活動全国大会 in 五ヶ瀬川実行委員会

### (2) RACフォーラム等の開催

(自主事業)

テーマ：体験活動教育の安全や小学校の授業における「川育」導入・利活用の方策

※ 日 時：平成27年3月上旬(候補日 3月2日(土)、3日)

※ 参加費：7,000円程度(食費宿泊費別)

※ 会 場：国立オリンピック記念青少年総合センター予定

#### 4. 調査研究事業

##### (1) 調査検討業務

###### ① 川の体験活動指導者普及事業

- ・全国各地で継続して川の指導者の養成を推進する。また、RACリーダーの少ない地域（「RAC 過疎地」）で指導者養成講習会を水辺のリスクマネジメントやプロジェクトWETと合わせて開催する。

※「RAC 過疎地」での開催予定地— 愛媛県、石川県、富山県、山口県 他

###### ② 学校連携推進事業

- ・学校連携のパイロット地域を選定して学習構築モデル作る。

平成 25 年度	平成 26 年度
町田市立鶴川第 2 小学校（東京都） 福島市立渡利小学校（福島県）	六ヶ所村立尾駈小学校（青森県） 江田島私立切串小学校（広島県）

※いままでに RAC と連携した学校、RAC 学校会員登録校については川の活動の講師派遣（OJT 研修として）を行う。

※教員を対処とした RAC 学校リーダー養成講座のモデルプログラム等の構築開催を行う。

###### ③水辺のひやりはっと事例の拡充

- ・ホームページの情報サイト「水辺のひやりはっとプラットフォーム」の事例拡充等を行う。

###### ④その他関連事業

- ・「川に学ぶ体験活動」を普及するために必要な調査業務を提案する。
- ・川の指導者養成講座の運營業務を行う。
- ・河川水難事故防止に向けた講習会の運營業務を行う。
- ・その他 RAC の目的を達成するために必要な業務を提案する。

## (2) 「川育」関連事業

### ① 防災教育関連

- ・ 防災教育キャンプなど、川を活用した青少年育成事業を各地の構成団体を中心に推進する。

### ② 水辺体験活動用 PFD の標準仕様の研究及び試験方法の研究

- ・ 国内外の事例を参考にして、川での体験活動に適した PFD の標準化とその試験方法等の研究を行う。

## 5. 広報・普及活動

### (1) 全国一斉 1 万人・川の流れ体験キャンペーン

- ・ 子どもまたは親子向けにライフジャケットの着用等川での安全を学習し、活動の一つとして川をきれいにする活動を行うことで、楽しさの中で自ら川をきれいにしたいという思いを醸成する。併せて活動の動画記録をHPにて配信する。
- ・ 学校等へ子ども水辺安全教室の講師派遣を支援する。

### (2) RACアワード

- ・ 一般の方々へ川の魅力を発信するために、川の活動のプロモーションビデオの映像祭を行う。

### (3) その他広報活動

- ・ メールマガジン「RACNEWS」を随時回発行。
- ・ ホームページ、facebook を随時更新する。
- ・ 役員が中心となり各地域で普及活動を展開し、会員の拡大、指導者の登録及び更新率の向上を図る。
- ・ 「川育」のパンフレットを作成し、いろいろな地域の団体や小学校などに配布して教科教育や環境教育など川での教育活動の普及を行なうための準備を行う。

### (4) 川の指導者の道具、教材の販売、メンテナンス及び貸出促進事業

- ・ RACオリジナルグッズを普及し、より安全な水辺の体験活動の普及を行う。
- ・ RAC公認のPFDや、Eボート（Gタイプ）のメンテナンスを行う。

### (5) 広告事業

- ・ ホームページや各種パンフレットを活用し、広告事業を積極的に展開する

## 6. その他

### (1) 河川協力団体

- ・河川協力団体の立場として各種講座など河川利用者の立場で講座を開催予定。また、同時に東京都の防災船着き場も利用して講座を開催。

### (2) 講習会関係

- ・講師派遣、自然体験活動指導者認定事業を行う。

### (3) 資機材管理

- ・子どもの水辺サポートセンターの水辺体験活動資機材の管理を行う。

### (4) 企業系助成事業

- ・当法人の展開する事業を促進する為に積極的に企業系の助成事業へ提案・実施する。

### (5) RAC の若手指導者応援企画として活動資機材の提供

- ・鬼怒川商事株式会社様より、RAC 指導者（トレーナー資格者候補者・鬼怒川商事様より選抜）に機材の提供をしていただき、提供された資機材（AQA、GULL 等）を身に付けて各地域で体験活動を行う。

### (5) その他新規事業の提案

- ・当法人の目的を達成するために指導者や川を利用したいと思っている一般ユーザーのニーズの高い事業から優先的に新規軸となる取組みについて検討し事業化を目指す。

以上

# 平成26年度 活動予算書(案)

(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

特定非営利法人 川に学ぶ体験活動協議会

(単位:円)

科 目	予 算 額 (A)	前年度予算額 (B)	増 減 (A)-(B)	備 考
<b>(収入の部)</b>				
<b>I 事業活動収入</b>				
1. 会費収入	1,900,000	1,900,000	0	
①年会費収入	1,600,000	1,600,000	0	
②寄付金収入	300,000	300,000	0	
2. 講習会事業関連収入	3,850,000	3,750,000	100,000	
①登録手数料収入	1,640,000	1,540,000	100,000	
②講習テキスト関連	600,000	600,000	0	
③講師収入	300,000	300,000	0	
④講習会受講料	500,000	500,000	0	
⑤RACフォーラム	310,000	310,000	0	
⑥川に学ぶ全国大会	500,000	500,000	0	
4. 調査研究事業等収入	9,250,000	8,750,000	500,000	
①調査研究業務	7,050,000	6,050,000	1,000,000	
②指導者養成等講座運営事業収入	700,000	1,320,000	△ 620,000	
③サポセングッズ管理	600,000	600,000	0	
④キャンプ関連事業	900,000	780,000	120,000	
5. 助成事業収入	5,750,000	5,950,000	△ 200,000	
①河川整備基金1・国民的啓発部門助成事業収入	2,600,000	2,700,000	△ 100,000	
②河川整備基金1・調査研究部門助成事業収入	2,100,000	2,500,000	△ 400,000	
③川の流れ体験キャンペーン	600,000	600,000	0	
④山口育英奨学会	450,000	150,000	300,000	※H25はエコポイント
6. グッズ等著作事業収入	3,200,000	3,970,000	△ 770,000	
①グッズ販売	2,300,000	3,470,000	△ 1,170,000	
②グッズレンタル・補修メンテ	700,000	300,000	400,000	
③川育認定事業	200,000	200,000	0	※前年度テキスト分
事業活動収入計	23,950,000	24,420,000	△ 470,000	
<b>(支出の部)</b>				
<b>II 事業活動支出</b>				
1. 指導者養成関連事業	10,920,000	8,820,000	2,100,000	
1) 講習会事業費	3,450,000	1,450,000	2,000,000	
①指導者登録関連費	2,000,000	0	2,000,000	
②講習テキスト関連費	340,000	340,000	0	
④講習会関連費	100,000	100,000	0	
⑤RACフォーラム関連費	300,000	300,000	0	
⑥RAC・OJT事業関連費	30,000	30,000	0	
⑥川に学ぶ全国大会関連費	500,000	500,000	0	
2) 自主事業	220,000	220,000	0	
①広報宣伝費	50,000	50,000	0	
②「水辺のひやりはっ」と検証・普及啓発費	20,000	20,000	0	
③「川育」プロジェクト関連費	50,000	50,000	0	
④防災教育プログラム収集・発信費	100,000	100,000	0	
3) 調査研究事業費	7,250,000	7,150,000	100,000	
①調査研究業務関連費	5,840,000	5,340,000	500,000	
②指導者養成等講座運営事業費	350,000	600,000	△ 250,000	
③サポセングッズ管理費	510,000	510,000	0	
④キャンプ関連費	550,000	700,000	△ 150,000	
2. 助成事業費	5,750,000	5,450,000	300,000	
①川に学ぶ体験活動指導者養成講座開催費	2,600,000	2,700,000	△ 100,000	
②指導者養成制度調査研究費	2,100,000	2,500,000	△ 400,000	
③川の流れ体験キャンペーン関連費	600,000	600,000	0	
④山口育英奨学会	450,000	150,000	300,000	
3. グッズ等著作製作・管理費	2,200,000	3,160,000	△ 960,000	
①グッズ販売費	2,000,000	2,960,000	△ 960,000	
②グッズレンタル費	150,000	150,000	0	
③川育認定関連費	50,000	50,000	0	タグ印刷等
4. 管理費	4,770,000	6,060,000	△ 1,290,000	
①人件費	2,400,000	3,500,000	△ 1,100,000	
②賃貸料	840,000	950,000	△ 110,000	電気代除外
③管理諸費	930,000	1,010,000	△ 80,000	
④消費税	400,000	400,000	0	



⑤貸倒引当金	200,000	200,000	0
5. 予備的支出	300,000	300,000	0
①その他	300,000	300,000	0
事業活動支出計(経常費用合計)	23,940,000	23,790,000	150,000
当期収支差額	10,000	130,000	
Ⅲ. 経常外収入の部			
1. 事業外収入			
①受取利息	1,000	1,000	0
②雑収入	220,000	220,000	0
経常外収入合計	221,000	221,000	0
Ⅳ. 経常外支出の部	0	0	0
経常外支出合計	0	0	0
経常外収支差額	221,000	221,000	0
税引前当期収支差額(税引前正味財産)	231,000	351,000	△ 120,000
Ⅴ. 法人税等			
法人税・住民税及び事業税	100,000	100,000	0
当期正味財産増加額	131,000	251,000	△ 120,000
Ⅵ 投資活動収入			0
1. 特定資産取崩収入	0	0	0
①調査研究基金取崩収入	0	0	0
②退職手当等取崩収入	0	0	0
2. 敷金戻り収入	0	0	0
①敷金戻り収入	0	0	0
投資活動収入計	0	0	0
Ⅶ 投資活動支出			0
1. 特定資産繰入支出	100,000	100,000	0
①調査研究基金繰入支出			0
②退職手当等引当預金繰入支出	100,000	100,000	0
2. 敷金繰入支出	0	0	0
①敷金繰入支出			0
3. 固定資産取得支出	0	0	0
①固定資産取得支出	0	0	0
投資活動支出計	100,000	100,000	0
投資活動収支差額	△ 100,000	△ 100,000	
当期支出計	31,000	151,000	△ 120,000
前期繰越収支差額	2,672,446	3,640,046	△ 967,600
次期繰越収支差額	2,703,446	3,791,046	△ 1,087,600

【注】短期借入金限度額 5,000,000円(前年度 5,000,000円)

#### 公益法人会計における内部管理

事業活動収支	10,000	630,000	△ 620,000
投資活動収支	△ 100,000	△ 100,000	0
予備費	300,000	300,000	0
収支計	210,000	830,000	△ 620,000